

協働のまちづくり 第41回

これまで、そして、これから 協働の「波」次々に 地島：潮風の中の交差点

その1

187人の島民が暮らす地島。ここが今、協働のまちづくりの主舞台になりそう。「上げ潮」ぶりです。島の課題への取り組み、夢への挑戦、島外の人たちとの交流、子どもたちの元気づくりなど…。玄界灘の潮風の中に浮かぶ「まちづくり交差点」の感さえあります。今回から、この小さな島の大きなつねりを紹介します。

問い合わせ先 市民活動交流室 ☎(36) 0311

福教大生も合流

梅雨の晴れ間となった7月7日、地島の白浜湾内を8艘の小さな伝馬船がひしめき合うように走り回りました。

この日は、恒例の「櫓(ろ)こぎ体験」。伝馬船には、幼稚園児6人、小学生12人に福岡教育大学(福教大)の学生14人が合流、さらに先生や保護者も乗り込んで、船からこぼれ落ちそうです。「大学と地島を結ぶ地域交流」。これが、同大学の中島亨准教授の研究室が取り組むテーマです。留学生を含む学生たち、島の行事に参加することで異文化に触れ、異世代交流を体験し、さらには小学校が地域コミュニティにとっていかに欠かせない存在であるかを知ること。市が進める「元気な島づくり事業」



櫓こぎ体験のはずが、いつの間にか水掛け合戦に

に名乗りを上げた同研究室の行動第一弾がこの日でした。

島に溶け込んだ

難しい櫓こぎに汗を流した後、みんなの様相が一変。水掛け合戦が始まったのです。最初こそ遠慮がちだったのですが、だんだんエスカレーター。子どもや学生たちの歓声と水しぶきの中で、とうとう船を操るはずの

漁師さんまでが「参戦」。まるで船合戦のありさまです。

この光景をうなずきながら見ていたのは、同大学前講師の船津建先生。5年前にこの取り組みを大学側から仕掛け、今年から中島教室にバトンタッチした人です。この日は「後見役」として島に来ていました。「最初のころは、こうはいかなかったんですよ。『大学が島に何をしに来たの?』って感じてね…」と船津先生。今では、島で会う人ごとに「よう、よう!」と話ができるま

でになりました。中島研究室にとって心強いのは、船津先生が今後も「できる限り同行したい」と言ってくれること。大学と地島を結ぶ糸はさらに強度を増しそうです。

協働が目白押し

今年、地島では協働の取り組みがいくつかあります。福教大のほかに、①島外とのグラウンドゴルフ交流大会②地島イノシシ対策グループ③さざえ

の会(島の食材による食の開発・研究)④宗像茶道協会による島の子どもの茶室⑤宗像山笠振興会による4山笠(地島、鐘崎、大島、田熊)の連携など。また、これとは別に民間同士による動きも芽を出しています。「どうしてこの島にこんなに元気な風が吹くのか、どんな島おこしの土壌があるのか」。今回はそのあたりを探ってみます。

(市民参画等推進審議会委員・松永年生)

宗像市消費生活センター
転ばぬ先の杖
☎(33)5454

消費者庁も注意喚起

クレジットカードの現金化

改正貸金業法が6月18日に完全施行され、借入れ総額が年収の3分の1までになるなど、貸金業の規制が強化されました。このような状況の中で、現金が簡単に手に入ると誘う「クレジットカードのショッピング枠の現金化」のトラブルが増え、消費者庁も注意を呼びかけています。

事例

看板を見て店舗へ行ったら、「10万円の携帯ストラップ5本、計50万円をクレジットカードで購入すれば、40万円をキャッシュバック(返金)します」と説明された。その場で40万円を受け取ったが、翌月クレジットカード会社から50万円の請求書が届き、ストラップに価値はなく、差し引き10万円の損をしたことに気づいた。

アドバイス

クレジットカードには、後払いで買物する「ショッピング枠」と現金を借り入れる「キャッシング枠」があります。「ショッピング枠の現金化」とは、カードの買物の機能を、現金を借りる目的で利用することです。事例のような「キャッシングバック方式」と、売った商品を買戻す「買取屋方式」などがあるようです。



注意

△換金目的でのカード利用は、「カード会員規約」違反となり、クレジットカード会社から残金を一括請求され、カードの利用ができなくなります

△一時的に現金を手にしても、それより高い金額をクレジットカード会社に支払わなければならない

△詐欺罪などの犯罪となる可能性があります。安易な利用はやめましょう

多重債務電話相談

- 県弁護士会 毎週土曜日 10:00~13:00 *祝日は休み ☎092(721)6778
- 福岡財務支局 毎週月~金曜日 9:00~17:00 *年末年始、祝日は休み ☎092(411)7291

演劇に思いを込めて…
人づくりでまちづくり事業
劇団「夢かなた」公演
「ピアニスト」



熱演する劇団員

市が「元気な市民と、元気なまちづくり」につながる活動を支援する「人づくりでまちづくり事業」。宗像ユリックスで6月27日、市民劇団「夢かなた」による「ピアニスト」が上演されました。劇団「夢かなた」が「人づくりでまちづくり事業」に採択されたのは本年度が初めて。「むなかたに大人の演劇文化を広げよう!」が、この団体の事業目標です。

劇団員10人、ボランティアスタッフ3人によって立ち上げられた「夢かなた」は、演劇を通じた人材育成や宗像の地域に残る歴史や伝説、現代社会における問題提起など幅広いテーマを題材として、地域のネットワークを生かした演劇制作を目指しています。今回上演された「ピアニスト」の主人公は、50歳代の男性。妻と子どもの3人暮らし。ピアノ講師に教習を依頼するも、教えてもらうのは子どもではなく自分自身。哀愁漂う主人公が周りの雑音に惑わされることなく一生懸命に練習に励み、子どもたちに混じって発表会で演奏する姿に会場は感動に包まれました。劇団員のみなさんは、この公演を迎えるまでに4カ月間、宗像ユリックスなどの公共施設で練習を重ねてきました。プロ顔負けの芝居を展開する劇団員のレベルの高さに感動。次回はどんな舞台が繰り広げられるのか、たいへん楽しみです。

【劇団夢かなた主宰・横山和彦さん(34歳)】

セリフをはっきりと客席へ届けること、表情をしっかり見せること、心を込めること。このことをテーマに、すべての劇団員が一生懸命練習してきました。思っていた以上の反響の大きさ、この劇に込めた思いを発信できたことをうれしく思います。

問い合わせ先 市民活動推進課 ☎(36) 1540

【おわび】 広報紙7月15日(No.175)ページ、人づくりでまちづくり事業「元気な島づくり事業」の「おわび」欄に「この活動は、自由ヶ丘地区「コミュニティと地域のボランティアグループ、市民活動団体の里山の会との連携で生まれました。…」と誤記がありました。お問い合わせ先 市民活動交流室 ☎(36) 0311